

小児領域における作業療法の実践

佐野 美沙子 (名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻作業療法科学 助教)

作業療法 (Occupational Therapy) には、大きく身体障害領域、精神障害領域、老年期領域、小児領域、すべてを網羅する地域リハビリテーション領域がある。それぞれの領域で、作業活動を通して対象とする方の健康や Well-being を促進させ、「生活の質」の向上を目指すことを目的としている。対象者がより多くの日常生活活動・社会活動に参加することができるようになるために、医学、脳科学、心理学、教育学的知識に基づいたクライアント中心の支援が行われている。

小児領域は“子どもを対象とした作業療法”であり、基本的な作業療法の考え方に正常発達の視点を加え実践することが特徴である。子どもにとっての Occupation (作業活動) には、日常生活活動、遊び・余暇活動、学業 (・仕事) があり、作業療法士はこれらの作業活動の発達支援を行う。この時、子どもの発達を阻害する因子が障害そのものではなく、“障害があるために良質の経験ができないこと”であることを理解する必要がある。対象となる子どもたちがより多くの良質の経験を積み健やかな発達と社会適応が出来ることを目指して作業療法を提供している。子どもの発達支援の中で音楽療法士の方々と協働する機会も多い。子どもの作業療法の実施場所は、主に病院、児童福祉施設 (母子・単独通園施設)、発達支援センター、特別支援学校 (支援学級)、放課後等児童デイサービスなどがある。

今回は、小児領域の作業療法のことや作業療法の視点から捉える子どもの発達、作業療法の実際について知っていただく機会になればと考える。作業療法の具体的な流れから、作業療法で必要な観察スキル及び対象児をアセスメントする視点など、特に更衣動作の向上を目指すプログラムを示して実践例を紹介する。また近年、発達障害児は感覚処理問題も抱えている場合が多くあるといわれている。感覚処理問題については作業療法が専門としている分野であり、対象児の感覚特性とその対処法としての環境設定などについても伝えたい。

子どもを対象とした音楽療法は、心身の発達支援を目的の中心にされていると思います。それぞれの専門性を活かしながら協働していくことで、より質の高い包括的な子どもの発達支援に繋げていくことができればと思っています。

■プロフィール

名古屋大学医学部保健学科及び大学院医学系研究科博士課程修了。2010年英国ブリストル大学大学院教育系研究科修士課程修了後、英国での全寮制特別支援学校勤務を経て、2013年国立障害者リハビリテーションセンター研究所勤務、2020年から名古屋大学医学部保健学科作業療法学助教 (現在に至る)。専門領域は自閉スペクトラム症児を対象とした運動発達に関する研究。また、心身障害児総合医療療育センター (東京)、愛知県青い鳥医療療育センター (愛知)、豊田市子ども発達センター (愛知) 等で小児作業療法の臨床活動に携わる。巡回支援事業では外部専門家として20箇所以上にわたる施設にて子どもたちの発達支援を行ってきた。